

# 気候危機を生んだ システムからの脱却を

斎藤幸平

大阪市立大学

2021年1月21日（木）

# パンデミック！

- 生活が突如として一変した2020年  
→これまでの常識が非常識に  
=ポストコロナの「ニューノーマル」がどうなるかの分岐点
- 危機の時代にこそどのような対策を取るかによって、未来が大きく変わる大分岐
- そこに加わる気候危機
- V字回復では危機前の道に戻ってしまう = 破局への道  
→別の道はないのか？

# 危機をチャンスにするために

- ミルトン・フリードマン

「現実の、あるいはそう受けとめられた危機のみが、真の変革をもたらす。危機が発生したときに取られる対策は、手近にどんなアイディアがあるかによって決まる。われわれの基本的な役割はここにある。すなわち現存の政策に代わる政策を提案して、政治的に不可能だったことが政治的に不可避になるまで、それを維持し、生かしておくことである。」

- より分断や格差を生む社会となるか、それとも、より平等や自由に重きを置く社会となるか？ 未来は開かれている

## 2 1 世紀の環境社会主義

- ラディカル化する若者たち = 社会主義の支持
- ナオミ・クラインの立場の変化

「〔ソ連やヴェネズエラが深刻な環境破壊を引き起こしたという〕事実を認めよう。他方で、強固な民主的社會主義の伝統をもつ国々——デンマーク、スウェーデン、ウルグアイ——が、世界でもっとも先見の明がある環境政策を採用していることも指摘しておく必要がある。以上のことから結論できるのは、社会主義は必ずしもエコロジカルではないものの、新しい形態の**民主的な環境社会主義**——それは将来世代への義務やあらゆる生命のつながり合いについての先住民の教えから学ぼうとする謙虚な姿勢をともなっていない——が、人類の集団的に生存するためのベストな方法であるように見える。」  
(296頁)

# グリーン・ニューディール

- バイデンも大規模の財政出動を約束
- グリーン・ニューディールは、緑の経済への移行に向けた大型財政出動や公共投資によって、安定した高賃金の雇用を作り出し、有効需要を増やし、景気を刺激することを目指す。それが、さらなる投資を生み、持続可能な緑の経済への移行を加速
- 「誰も取り残さない」 = 気候正義
- バイデンのGNDは「グリーン革命」のための「気候ケインズ主義」となる可能性

# 気候ケインズ主義批判

- 「GNDの生み出す良質のグリーンな仕事の賃金が、ただちに極めて消費主義的なライフスタイルにつき込まれ、うかつにも最終的には排出を増やすようなことがないようにする具体的な計画が必要なのだ。みんながよい仕事から多くの可処分所得を得ても、それが中国から輸入される使い捨てグッズの消費に使われれば、埋め立てゴミが増えるだけだ。これが「気候ケインズ主義」の台頭とでも呼ぶべき問題だ。・・・必要なのは、採掘に厳しい制限を課し、同時に、生活の質を改善し、際限のない消費サイクル以外の喜びを得るための新しい機会を人々に提供する移行なのである。」（310～311頁）
- GNDが目指す抜本的な市場規制は資本主義そのものの論理と衝突せざるを得ない。= 21世紀の草の根の「**社会主義**」

# 脱成長コミュニズム

- 無限の経済成長、格差拡大、自然からの収奪  
→さらに悪化する可能性
- 気候危機は、資本主義の格差構造を根本的に是正することなしには、解決できない (system change, not climate change)
- 脱成長 (スローダウン、スケールダウン) だけで不十分
- 気候正義のためのラディカルな平等主義 = コミュニズム
- コミュニズムが目指すのは、「コモンの再生」
- オルタナティブな享楽主義 (alternative hedonism)